

●前立腺生検

■前立腺生検の体験：

生活習慣病などで当院に定期通院している 50 才以上の男性には定期検査のほかに P S A 検査も同時に行うようにしています。それは 50 才台より前立腺がんが増加することがその理由です。

P S A は前立腺特異的であるため、P S A が高い場合は前立腺肥大または前立腺がんの存在を疑います。私の場合は、かかりつけの先生にも生検を勧められ、横〇労〇病院泌尿器科を受診しました。P S A 値からはがんの可能性は 20~30%といわれ、生検することにしました。尿管結石以来、2 度目の入院です。

1) 生検の前日に入院：

外来で先生から説明を受け、様々な書類（たくさんでビックリ）を準備した上で入院します。

2) 翌日午前に生検：

い) 麻酔の方法：脊椎麻酔です。坐位（あぐらを組んで背中を丸める格好）で背中から注射針を刺す方法で、自転車のサドルが当たる範囲の麻酔のためサドルブロックともいいます。針を刺す立場から刺される立場になり、どんなに痛いのかと心配していましたが、難なく 1 回で成功しました。生検は直腸からではなく、陰囊と肛門のほぼ中間付近の会陰皮膚からのアプローチです。麻酔が効いているため、全く痛みはなく、ただ生検の際のカチ、カチという音がするだけです。また膀胱への留置カテーテルも初体験でちょっと心配しましたが、麻酔後の挿入だったので何も感じませんでした。手術室には音楽が流れ、何事もなく生検は終了しました。

ろ) 帰室：歩いて入室しますが、帰りはストレッチャーです。寝たまま運ばれ、天井がサーと流れる風景はとても妙な感じでした。これからが大変でした。下半身が麻痺し、身動きができません。術後 3 時間は安静の指示です。同じ姿勢を続けることがいかに大変であるかわかりました。“腰が痛くて痛くて” 仕方ありませんでした。これが今回の一番つらいことでした。そしてオムツのギャザーの部分が腰に長時間当たっていたので、後でひどい接触性皮膚炎になりました。腰痛と皮膚炎は想定外でした。当日夜には麻酔もとれ、横になることもでき、鎮静剤の点滴でぐっすり眠ることができました。

は) 生検翌日：

洗面、朝食を済ませ、さあ排便です。便意にまかせて気張ったら、尿道から鮮血がドッと出てきました。その後カテーテルからも真っ赤な尿がどんどん出てきました。先生から水分をたくさん取るよう指示され、がんばって水分を取りましたが、のどが渴いていないのに水分をたくさん取るのはつらいことです。少し味のついたスポーツドリンクが飲みやすかったです。先生や看護師さんがかわるがわるカテーテルの尿の色を見に来ました。尿が赤いうちは退院できません。それでも何とか午前中に退院することができました。私の場合、前立腺が大きく、24 箇所も生検したため出血が多かったようです。

に) 自宅療養：

退院後 4 日間自宅安静し、生検 5 日目から仕事を始めました。ほぼ毎日、毎回血尿です。血尿が薄くなったり、濃くなったり一喜一憂です。仕事や車の運転には低反発マットが良かったです。その後、徐々に血尿の回数が減り、色も薄くなりました。肉眼的な血尿はほぼ半年で止まりました。

ほ) P S A 検査：

生検の結果は悪性ではなく、ほっとしました。生検から半年後の P S A は生検前と変わりなく、現在前立腺肥大の内服を続けています。